



詩篇第一卷
詩篇12-31篇

詩12-18/19-31

2017.10.25

(神お) 地	}	20:21	19:	13:	12:	} 地		
		23:	22:	15:	14:			地の飛言が主に通らう
		25:	24:	17:	16:			民は主を畏れ敬ふ。
天	}	27:	26:	18:6	18:1	} 天		
		29:	28:	18:3	18:2			天の主がさばく
		31:	30:	18:5	18:4			

王・家 ヨシヤフ・ソロモン	主・地 モーセ・ダビデ
声 主を恐れ、信賴。 榮光と力	舌、ことば 偽り、恐れ、ゆりがたい 火、雷水、杖警

* 12: 主のことば vs 偽言
19: 主のことば、悔改
* 19: 23: 25:
A/C 王子と先王、平和王
神聖と新王と同じ
* 15: 正しい、ゆりがたい
24: 榮光の王が

詩篇第1卷の2集と3集、その全体の構成、フォーメーションを見ていて、前回この義の道を歩むこと、主は救いの岩であること、これがくの字にクロスしているねということを見て、モーセからヨシヤアへ、ダビデからソロモンへ、その相続分、主はともにいる、主の家に住むという父から子への相続の命令の構成で二つのところが並行しているということを見ました。

この右と左12から18、19から31を分けるものは何なのか、上下24、25までと26からのところ。18はひとつですからね。18と12から17までの区別は何なのかということも次に見なくてはいけないということで、こちらです。

少し前の2012年にやったものは、区分自体は同じで良いと思うのですが、題になっているところをもう少し確かめて正確に見ようというところ。この辺に舌、唇のこと、ことばのこと、救いと復讐、王の話、義の道、感謝の声、呼ぶ声というようなところがこの段階で見えていました。

それでそれを分けてみようということが10月23日、今回はこのように考えています。12から18、こちらは初めの救い。主が救ってこの地を与えてくれるという初めの救い、それでその初めの救いが完成する。今度主が王を与えて主の家に住むという完成のほう、初めと終わり。この初めのほうは出エジプトみたいな感じです。それでモーセ、ダビデ。それで、ヨシヤア、ソロモンと書いてあるほうが、カナンに入る、主の家を建てるという段階で父の働き、子の働きというように分けられるのではないかとということです。

(神の子) 王が地を敵と戦う 罪と戦う	地	20:21: 19:	13:	12:	地 地の悪舌が主に逆らう 民は主に喜び歌う。
		23: X 22:	15: X 14:		
		25: 24:	17:	16:	天 天の栄光と 主の家を賛美する
天	天	27: 26:	18:6 18:1		
		29: X 28:	18:3 X 18:2		
		31: 30:	18:5 18:4		

王・家 おわり

ヨシフ、ソロモン

声

主を恐れ、信頼

栄光と力

主・地 はじめ

モーセ、ダビデ

舌、ことば

偽り、恐れなし、ゆりがない

火、雷、水、復讐

たとえば...

- * 12: 主のことば vs 偽舌
- 19: 主のことば、悔改
- * 19:、23:、25: ハリ子の子孫、神と王、神と王の祈りと同じ
- * 15: 戦い、中絶
- 24: 栄光の王

例えば、こちら（右）は、舌、ことばが多いですね、こちら（左）は、声が多いね。（左）主を恐れて信頼すること。（右）偽り、恐れのない者たちと、岩に信頼して揺るがない人。（右）水、雷、火の復讐の裁きと（左）その裁きによって栄光と力があらわされているというようなキーワードがだいたいこんなふうに見えるかなと…。

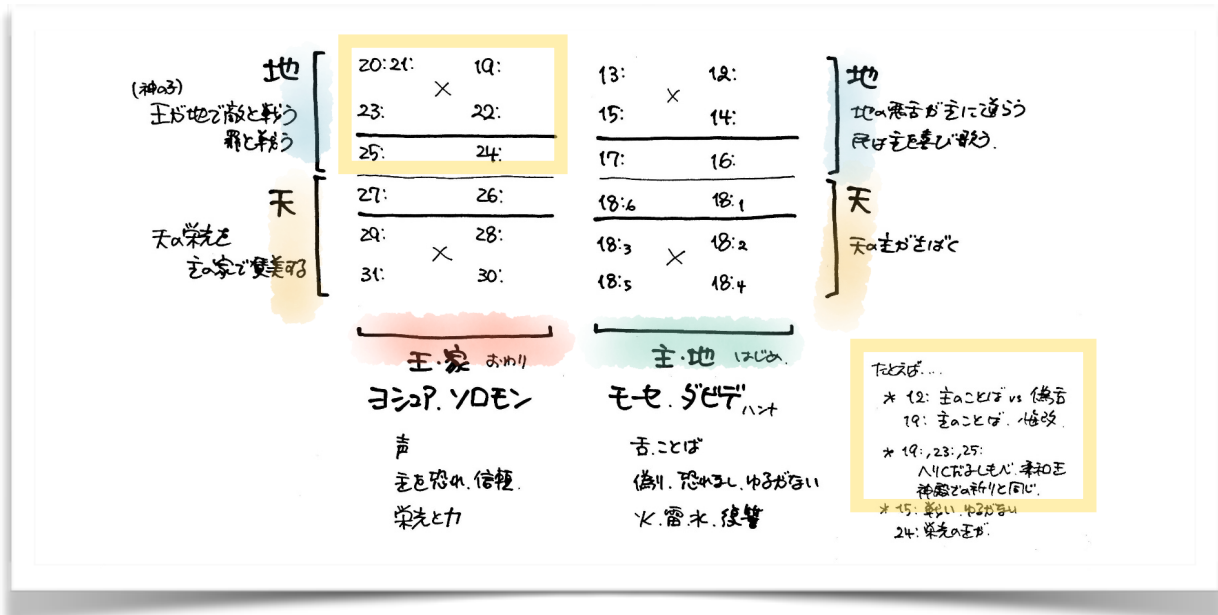
(神の子) 王が地を敵と戦う 罪と戦う	地	20:21: 19:	13:	12:	地 地の悪舌が主に逆らう 民は主に喜び歌う。
		23: X 22:	15: X 14:		
天の栄光と 主の家を賛美する	天	27: 26:	18:6 18:1	天 天の栄光と 主の家を賛美する	
		29: X 28:	18:3 X 18:2		
		31: 30:	18:5 18:4		

上と下、12から17と18。19から25、26から31。この違いは地と天というようにここで分析をしています。最初のここの地、（右上）地で戦いがあるのです。こちら（左上）でも地で戦いがあるのです。（右上）天からさばきが来る、（左上）天の祝福が与えられる、天の栄光があらわされる、栄光が（左上）戦いと（左下）勝利、（右上）戦いと（右下）勝利のようなものにも見えるかもしれません。（右上）地でラションハラア、悪の舌と戦っている。それで、（右下）主の民が喜び歌うというところで終わるので

けれど、この地でことばの戦いがある。そのことばの戦いに対して、天から見て天の主がさばきますというのが18篇です。19からのところは、その天の主の子供である王様が地で敵と戦っている。それで勝利を取めるならば、主の家、天の家で、天の栄光を賛美するようなかんじです。27も31も強くあれ雄々しくあれで終わっているというようなことで、「地、天」という区別じゃないかなと考えています。

こうやって見てくると、例えば12篇と19篇の出だしのところですが。12篇、19篇にちびるのことば、主のことばは清き言葉で、七たびきよめられた銀のようであるとか、ここに(19篇)主のことばは混じり気がなくてとか主のさとしは正しくて、金よりも純金

よりも舌は好ましいという並行が見えると思います。こちら(12篇)はへつらい、偽りの舌と戦っている主のことばということです。それでここにいる(別紙表)わけですね。19のほうは、王が地で敵と戦っている罪と戦っているということなのですけれど、主のことばによって明らかにされる。



この19篇を歌っている人が、単なる個人が歌っているというふうにと考えるとこの中の位置付けが変わってしまいます。正しい人がこの歌を歌っているということはそうなのですけれど、ここで、しもべは、あなたのしもべ、あなたのしもべ…と自分のことを言うのは、モーセとかダビデとかソロモンとかのリーダーなのですよ。本物の敵と戦う神様の子である王様が歌っているということです。この王様は、自分の主のことばに信頼して自分の罪を悔い改める。自分の過ちがないものとなることを願って、みことばにしたがって裁きをなす。まず自分をさばくというところから始める憐れみ深い王様なのですよというところから、19篇からの段落が始まっているということです。12と19が似ていることばもポイントもありますけれども、役割が違っている。

19篇はそうなのです。義の道に歩む王様の話ですということで見ると、19,23,25というつながりもあります。罪を赦す、25篇は罪の赦しを頼んでいるという詩篇です。これも今の観点で考えると、19も23も25も王様が歌っているというように考えてください。基本的に王様が歌っている詩篇が多いのですけれど、王としての詩人です。

23篇は主は私の牧者ですという言い方を見ると、ヨハネを思い出してキリストは私たちの牧者で、ここで「私」と言っているのを「私たち」だと思って読みますよね。それは悪いことではないし、そうなのですけれど、ここでは神様が牧者なのですが、私は「王様」なのですよ。王様をこのように導いているというのがここで出てくるところです。この流れの中で…。

22篇も自分たちを赦してくれると見ると、神様と自分たち個人と考えてしまいますけれど、まずそれはそうなのですけれど、王様が神様に罪の赦しを求めているということ。これを第2歴代誌7章というところがあるように、これはソロモンが神殿で主の御顔を仰ぎ見て祈っているのは罪の赦しですよ。

ですから、罪の赦し神様に信頼して敵の前でも杯があふれている、この恐れがない、主を恐れる道、主を恐れる人は誰か。主を恐れている知恵のある王様は「義の道に歩む」ということなのですね。義の道に歩む知恵のある私たちの王様は、地の王たちと戦うときにまず、自分たちの罪の赦しを神様に願うということで、この19,23,25「へりくだるしもべ、柔和な王」この神殿での祈りと同じ意味ですよということで、王との関係で19,23,25を読まなくてははいけません。 (ほかにも全部そのように見ないといけないのですけれども…)

王・家 <small>おわり</small>	主・地 <small>はじみ</small>	たとえば...
ヨシフ・ソモン	モーセ・ダビデ <small>ハナト</small>	* 12: 主のことば vs 偽言 19: 主のことば、悔改
声	舌のことば	* 19, 23, 25: ハナトの子孫、柔和王 詩篇24の祈りと同じ
主を恐れ、信頼	偽り、恐れ、ゆりがない	* 15: 新しいゆりがある 24: 栄光の王が
栄光と力	火、雷、水、杖	

例えば15と24は似ている詩篇で、(15)あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、聖なる山に住むべき者はだれですか。(24)主の山に登るべき者はだれですか、その聖所に立つべき者はだれですかという同じ質問に答えていく。それで、偽り、悪を行わないとか似ている答えになっていますよね。似ている答えになっているのですが、24のほうには、栄光の王がはいってくるというのがくっついていきます。御顔を慕い求める者のやからであるというのくっついていきます。

この全体の配列の中で、15と24はやるべきことということが入っているのですけれど、こちら(15)は、偽り者と悪者と戦っても揺るぎませんということです。戦いの中でどうしているのかということが書いてありますけれど、こちら(24)は、その戦いに勝つ人は王様なのですね。聖所に立つべき人、主の山に登る王様は誰なのか。住む人たちの中の一番トップの人、その人はこのような人です。この新しい私たちの憐れみ深い王は誰なのかということをご質問して、だからここで、栄光の王がはいってくるということが続いてくるということですので、この質問と答えがこの大きな流れの中で役割がありますというようなことを見ながら、全体の配列を見て、それぞれの詩篇の役目を考えていくということが大切なのだろうと思います。

全体を覚えるのもいっぱいあって大変だし、似ていることばもいっぱいあるのですけれど、区別して把握することは正確に読むために大切なことだと思われま。